

て人はいないと思えますけどね（笑）、国歌だという事を知らない人いるんじゃないかな  
いでしょか。

それじゃあ、「日の丸まるって何ですか？」って聞いても、国旗こっかだと分からない人いる  
んじゃないかと思えますね。これは、先生達が学校でやらせない処ところもありますからね。  
しかし厳密げんみつに言ったら、国歌や国旗こっかが無い国がある訳がない。

ところが、それをやると、「軍国主義ぐんこくしゆぎだ」と言う人が出て来る訳ですよ。

世の中というのは、もう自分の勝手な事ばかり言う人が多くなってきた訳で  
すね。我々は本当の事が分からないから、自分の事ばかりを考えて、そしてこの世を  
終わって行く訳です。

### 一三、執着しやくちやくの果はて——初めてお化ばけと遭そう遇ぐう

私が初めてお化ばけに出で会あったのは、高橋先生の仕事を手伝てつたうようになった時です。

私はね、元々物凄どんかんく鈍感にぶんなんです。感度かんどが鈍にぶいですよ。人が、アツと思うよう  
な事でも、それから暫しばらくしてから、「何かあったんですか？」なんて調子ぢょうしなんです。

まあ、お化ばけなんてものは、あまり見ない方がいゝですけども、高橋先生がお元氣  
な頃、長野ながの県の志賀しが高原こうげんで研修会けんしゅうかいがあった時のことです。

その日の日程にっていが終わって夜寝よるねた。そうしたら夜中よなかに、私の隣となりに寝てる人が、フツ  
と起き上がる訳です。そしてまた、スツと寝る訳ですよ。まあ、夢遊病むゆうびょうしや者ものみたい  
に何回もやる訳です。

私は、「この人どうしたのかな？」と、薄目うすめを開あけたんですけれども、何かこう「こ  
れは只事ただじじゃない」と感じた訳ですよ。私は臆病おくびょうですからね、厭いやですからもう……  
布団被ふとんかぶって寝ちやった訳ですよ。（笑）

そしたら次の朝になって、その隣となりにいらした先生が、

「朽木くもさん、何で起きてくれなかったの？ 布団ふとんの中から、こっち見てたじゃないの」  
「どうしたんですか、先生……」

——お化ばけだった訳ですよ。私と、隣の人のお化ばけが立たっていた訳です。その

前の方にも、他に三人も四人もいたんですよ。

私は幸い臆病ですから布団被ってましたけど、隣の人は寝られなかったそうです。まあ、それが私が最初に観たお化けなんですね。だけど、私はそれをもろに観た訳じゃない。しかしそれから後、いろんな事に遭うようになったんですよ。

これは、高橋先生と講演の旅行をしている時に、京都にある大きな割烹旅館に泊めて貰った時の事ですが、高橋先生は、本館の前に庭があつて、砂利がズーツと敷いてある奥の離れの部屋に、お一人で寝ておられた。

夜中になつて、先生が私達の部屋にみえて、

「悪いけど、誰か私の部屋の方で、一緒に寝て貰えませんか」

と仰ったんですよ。「あ、何かお化けでもいるのでは」と思ったんですよ。

「先生、どうされましたか」

「いやね、実は寝られなくて困っているんですよ」

ところが、他にいた三人の人は、みんな話も聴かないで布団を被って寝てしまったんですよ。(笑)後は私だけなんですね。折角そうやって来られたんだし、私が年長

でしたし、霊的なものも鈍感ですから、

「先生、私が行きますよ」

と、ご一緒したんですよ。

そして、離れの敷居に足を踏み入れようとした途端、「あつ！これはいけない」と、もうそこで分かったんですよ。「これは、いるな」と思いましたよ。先生が、

「私は鼾をかくから、互い違いに寝ましようや」

と仰つて寝た。もう夜中の一時過ぎ……と、暫くしたら、パラパラ……つて音がするんですよ。「あれーっ？」と思つた。ここは日本家で、障子が廊下の方にズーツとあるんですよ。風も何も無い。風ではなくて、実は障子の棧を擦る音なんですね。そのうちに、バタバタ……と大きな音になつた。

今度は足音がして、「までーっ！」っと、自分が言われているのかなと思うくらい、はっきり聴こえてくるんですね。「あ、これはいけない」とそう思いましたよ。(笑)それでも、「先生がいらっしやるから、まあいゝか」と布団被って寝たんですよ。その後、夜中に、ふと先生の方を見てみると、寝られなくて起きていらっしやるん

です。そして、そのお化け達に一所懸命に話をしている訳ですよ。

「あなた達はね、こんな処にいても、救われないですよ……執着を捨てるんですよ」と仰っているんですね。

その人達はみんな明治維新めいじいしんの時の人達ですね。死んだ事も気が付かずに、未だいまにチャンバラをやっている人達がいるんですよ、そのままの状態で——。

やられたら、「やったな！」と何年もく争いを繰り返している。

京都という処は、大昔から都みやこですから、あの中で人を殺ころしたり、殺されたり、ガタガタ……やっている処なんですね。

そんな事を言ったら、京都の旅館に泊とまれなくなってしまうですけど、本当にそういう事があるんですよ。皆さん分らないから、平気へいきで泊とまっているだけであってね。

私は元々臆病おくびょうなんですよ。その辺で、カタンと音がしただけで、ワッ！と（笑）、吃驚びっくりして飛び上がるくらいなんです。最初は厭いやでしたよ。

しかし、お化けは、ただ出て来るだけですから、別にどうという事はないですね。逃げる必要も無い。住んでいる場所ばしょ世界が違ちがうんですから——。

ただ違う処から、観みているだけ、感じるだけです。

これは、お化けが怖こわいということではなくて、今、肉体を持っている私達も、実は何れ終わって行く訳ですよ。自分がそういうお化けにならないようにと、そのお化けが姿を見せてくれているんですね。

「あなた、わたしみたいになりなさんなよ」とそう教えているんじゃないでしょうか。

そうなったら、大変ですから、もっと楽しい事を考えて、心を明るくして毎日を過いごしましょうということですね。

そうすると、こういう現象は何故起きるのか？——やはり、それだけ念ねんというものが残のこっている訳なんです。念ねんなんです。念ねん想おもい。

人間というものは、生きている時には、集団しゅうだんがあると、集あまった人はその中で少しでも人のやっっていないような、格好の良よい事、みんなの目に付く事、それでまた、みんなよりも何か自分は分かりたいとか、靈れい的な力ちからを持ちたいとか、そういう考えを持つ訳です。

組織そくしみたいなものが出来てきて、その中に入いっていくと、尚更なそれが激げしくなっ

いく訳ですな。

それは宗教というものにしてもそうですな。その組織の中で、少しでも人より良くなるうという心を持つてしまう。使つかいようによつてはいゝかもしれませんがね。人間というものは、どうしても、人を蹴落けおとしてやろうとか、沢山集たくさんあつまった人を利用りようして、金を儲もちけようと考える。それから、

- 一、自分の暮くらしが良くなりた。
- 一、家族かぞくの不調和ふちょうわを、調和ちょうわしたい。
- 一、病氣びやうきをしているので、何とか治なおしたい。
- 一、家庭かていの中は、子供こどもと上手うまくいかないんだけれども、何とかならぬだろうか。
- 一、良い学校がっこうに入いりたい。
- 一、良い人と結婚けっこんしたい。

——こういうような事を考える。

中には、選挙せんきよで当選とうせんしたいという人もいる。これはこの前、私の処せうだんに相談さうだんに来た、或る議員ぎいんさんがいるんですな。

——次回じゆうかいに続く

次回『一四、ある政治家の相談』『一五、縁とは約束事』の更新予定は、四月中旬頃です。どうぞお楽しみに。